

図 書 館 通 信

発行日 / 令和 6年 8月 1日

編集発行 / 旭川市中央図書館
(旭川市常磐公園 0166-22-4174)<https://www2.lib.city.asahikawa.hokkaido.jp/>

第5回 ゲスト 中央図書館長



中央図書館館長として着任された、登野千夏(とのちなつ)館長にお話を伺いました。

今年度4月に図書館に着任しましたが、驚きの毎日です。第一に中央図書館はもとより、4地区館、10分室を含めた職員全員が「としょかんだいすき！」です。「図書館をもっと良くしたい！」というパワーに全員が満ちあふれています。



図書館は本やCD、最近では電子書籍の貸出を行うほかに、本と人を結びつけるため、数々の読み聞かせなどのお楽しみ会やイベント、映画、展示、体や目の不自由な方に対するサービスも行っています。さらに、小さなお子さんの健診会場など図書館の外に積極的に出かけ、お母さんと赤ちゃんに読み聞かせを行う事業も進めています。

中央、地区図書館では、CD、DVDの視聴やリスニングの設備もあり、館内で利用が可能です。中央図書館では隣接する常磐公園を眺めながらCDの音楽を聞いたり、好きな映画を視聴覚ブースで見たりなど、癒しの時間を過ごすことができます。2階のテラスには、夏の間、椅子やテーブルを配置しており、緑豊かな中で読書を楽しむことができます。



第二に図書館の多くのイベントには図書館の魅力を知り、その「沼にはまっている」ボランティアさんが200人以上も関わってくださっています。

私は3月まで本から遠い存在でしたが、既にその沼にはまっています。一人でも多くの市民の方々に図書館の数々の事業や魅力をお伝えしていくことが、館長としての今後の責務と考えておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。



ようこそ、「図書館の沼」へ。

ブラリーがいく!



地区館紹介のフィナーレを飾るのは、末広、永山です♪次はどこへ行こうかな…?



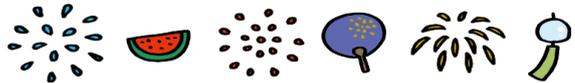
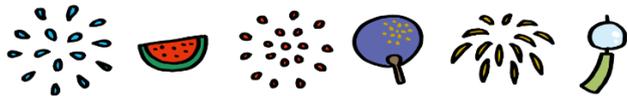
末広図書館は、地区図書館としては一番早く、1993年(平成5年)5月に開館しました。住宅街の中にあり、六合中学校と同じ敷地内に建っています。

地区図書館では唯一の2階建てです。1階には一般書、児童書の図書資料、CDやDVDなどの視聴覚資料が並んでいます。毎月、担当者がテーマを決めて本を集めた特集コーナーを設置しています。

2階には新聞・雑誌の閲覧コーナー、図書館のDVDを視聴できるコーナー、くつろぎコーナーなどがあります。また視聴覚室では毎週土曜・日曜にわたりのしみ会を実施しており、絵本の読み聞かせやおはなしなどを楽しんでいただいています。みなさん、ぜひ気軽にお越しください。



末広図書館 K 館長



永山図書館は、1994年(平成6年)10月に「永山市民交流センター」とともにオープンした、中央・末広に次いで旭川で3番目にできた図書館です。

現在の蔵書資料は、約7万9千点と、市内の他の図書館と比べて多くはありませんが、館内は全体的にゆったりしたつくりになっており、落ち着いた環境で本を探したり、読書を楽しんでいただくことができます。

今年7月から児童書のコーナーを一新し、小さなお子様が座って絵本を読むことができる場所や、館内でご覧いただける布でできた絵本もご用意しました。

また、育児に関する本を1か所に集め、子育ての悩みや遊び・食事・絵本に関する本など、様々な内容の本を横断的にご覧いただくことができるようになりました。

新しくなった永山図書館をぜひご利用ください。



永山図書館 S 館長

読んだら人に言いたくなる あんな本 こんな本 2024 夏

気になる本があれば
図書館職員まで
お尋ねください♪

福

小田 雅久仁／著

人体のパーツを題材とした、ありとあらゆる“わざわざい”の詰まった七編からなる短編集です。

新鮮な鼻を育て、他人の耳にもぐり、本を貪り喰っては肉の海に溺れてしまう主人公たち。

そうした常人には到底辿りつけない奇妙でおぞましい世界が、全編通してねっとりと執拗に耳元で囁かれ続けます。

肌が粟立つような不快感を覚えながら、それでも不思議と物語から目を離せないのは何故でしょうか。

それはこの本が、内に秘めた好奇心を呼び覚ます抗いがたい魔力を帯びているからに違いありません。

吐き気がするほど禍々しいのに、眩暈がするほど甘美な悪夢の迷宮に思う存分囚われてみてはいかがでしょうか。

T 司書

水中の哲学者たち

永井 玲衣／著

日常はたくさんの問いで溢れています。

「夢と現実の違いは?」「死ぬとどうなる?」「おとなとこどもの違いは?」

著者はそういったテーマについて、複数人でじっくりと考え、聴き合うという「哲学対話」のファシリテーターを務めています。

そう、この本のタイトルの“哲学者たち”とは、アリストテレスやプラトンや研究者のみを指しません。

問いについて考える、私たちみんなのことです。

誰も正解を知らない問いをみんなで考える。ひとりじゃないから、思いもよらない他人の考えに自分の一部が打ち壊されたりもする。著者が誘う思考の海の中はこわくて、美しく、心地がいい。

もしかするとあなたも哲学者のひとりとなって、その海に潜ってみたいくなるかもしれません。

K 司書

仮題・中学殺人事件

辻 真先／著

M 司書

推理小説の歴史は「意外な犯人」の発明の歴史と言っても過言ではありません。

そんな中この作品は、究極の「意外な犯人」に挑戦しています。

それは「読者」。

「ネタバレはルール違反!」とお怒りのみなさん、ご安心ください。

「読者が犯人」であることは、この小説の序章「眉につばをつけま章」で語られているのです。

ポイントは「何故そうなるのか」です。

その論理に納得するか否かは、この作品を読む「犯人」のアナタ次第です。

※ルルウの『黄色い部屋の謎』、クリスティの『アクロイド殺し』を未読の方は、序章はとばして読むことをお勧めします。

大学で学ぶゾンビ学

岡本 健／著

E 司書

夏に発行……、ということで、ホラー方面で選ぶ本を考えてみたのですが、ゾンビはあまり季節に関係ないような気がしますね。「大学で学ぶ」とタイトルにあるように、ゾンビを題材として、人文科学や社会科学の研究を行う手法について書かれている本です(怖い内容ではないですよ!)。ゾンビ映画の歴史から、漫画やゲームにおけるゾンビの描かれ方、アニメ聖地巡礼など、様々な観点からゾンビを考察しています。ゾンビが好きな方は勿論、大学でサブカルチャーを題材にした研究をしてみたい、と考えている方にも参考になる本だと思います。



楽器が大好きです。特にギターが一番ハマった楽器で、お気に入りのレコードから流れる音と同じ音を出せるという高揚感は、10代の多感な心に鮮烈に突き刺さりました。

社会人になってから数十年のブランクがあったのですが、この何年かで再び手にするようになりました。ちゃんと体が覚えているという感覚はとても嬉しいものです。指の動きは明らかに劣化していますが、何より「あっ、まだできるぞ。」というワクワク感が大事なかなと思っています。

「耳」の方の劣化はどうでしょうか。学生の頃、あこがれのF社やG社を使っているバンドの音を聞いて、やっぱり本物は違うなあ、と思ったものでした。しかし現在のゆる～くなった自分の感性に従えば、100万円のギターの音と、10万円のギターの音、「…それほど違うかなあ…？」とポロっと言ってしまいそうになります。(笑) …イヤイヤ、音が違うというのはもちろんわかりますけれど、そこに90万円分の優劣を決する程の差を感じ取れるか自信はありません。

自分が現在よく使うのは、当時バイトで貯めた6万円で買った前述のF社の日本製の廉価版です。充分すぎるくらい良いギターですよ。(笑)

令和5年度 図書館統計

★図書・資料数	1,379,796 点
★年間貸出点数	1,696,792 点
★貸出利用者数	358,885 人
★市民一人当たりの貸出数	5.3 点
★電子図書館 ライセンス数	10,333 点
貸出数	13,321 点

旭川市図書館
ホームページ



Facebook



イベント情報など掲載中です!

